



外国語学部 中国語学科 4年 齋藤 佑也

—初めに—

皆さん、明治以降の産業革命と聞きなにを思い浮かびますか。私はなにも思い浮かびませんでした。様々なことを調べた結果、軍艦島が明治以降の産業革命に大きく関係していることが分かりました。私は、以前から軍艦島にとても興味があり、一度は行つてみたいと思いました。実際軍艦島に上陸をしたのですが、迫力のある場所で圧倒されました。青い海の上に浮かぶ小さい島に、そびえ立つ錆びたビルは、より一層廃墟を表している感じがします。

今回私たち学生部会は、明治以降産業革命についての記事を書くことになり、二泊三日長崎に滞在しました。その中で私は、軍艦島について調べるために軍艦島に関する資料館に足を運びました。この長崎の取材で学んだこと、感じた事、そして伝えたい事を書きたいと思います。

—資料館—

今回の記事のテーマである明治以降の産業革命に関する資料を探し、軍艦島深く関わっていたことが分かりました。また軍艦島は今年（2015年）、世界遺産に登録され、話題にもなりました。

話題になつた場所を訪れ、また私自身軍艦島にとても興味があつたので、訪れることができてとてもよかったです。私は、軍艦島に上陸する前日、軍艦島に関する資料館『軍艦島デジタルミュージアム』を訪れました。資料館には、多くの軍艦島に関する資料が展示されていて、また現代のデジタル技術を用いて、当時の膨大な写真資料や映像資料をもとに、当時の様子が再現されていました。

資料館は4フロアあります。一階には軍艦島に関するグッズが販売されています。二階には、最新鋭の映像技術を駆使した「映像ギャラリー」があり、当時の住居の一室を再現した「65号棟の暮らし」、デジタル映像を使い、当時の採炭現場の説明、坑道体験ができる「採炭現場への道」、当時の写真資料3000枚以上を用いて、全長30メートルのスクリーンにコラージュの手法で当時の空気管を再現している「軍艦島シンフォニー」、そして軍艦島のすべてがタッチパネルで解る「軍艦島の謎」があります。三階には、当時軍艦島に暮らしていた人々の表情を写した「軍艦島の表情」があり、軍艦島の実寸150分の1のジオラマが展示されており、当時の祭りや行事などのデジタル映像と一緒に表現されてある「シマノリズム」、軍艦島で採れた石炭を用いた軍艦島の水墨画が展示されて

ある「Wonder Island」があります。そして四階には軍艦島にある端島神社を再現したフロアがありました。

この様に「軍艦島デジタルミュージアム」には多くの資料があり、軍艦島を知らない人でも詳しく丁寧に解りやすく楽しめる事ができ、軍艦島のすべてが分かります。資料館を訪れ、私は軍艦島について知ることができました。どの展示物もすべて印象的でしたが、私が最も印象に残った展示物は、当時の採炭現場をデジタル映像を用いて再現した「採炭現場への道」です。当時の採炭現場がどのような現場だったか、映像で体験することができ、採炭現場の詳しい説明を映像で見て、知ることができました。

ここから、私が「軍艦島デジタルミュージアム」で学んだことやみなさんに自慢したいことを書きたいと思います。まず軍艦島には、「世界一」、「日本一」、「業界初」がたくさんあること知っていますか。「世界一」というのは、世界一の人口密度のことです。当時、最盛期の軍艦島の人口密度は、東京23区の約九倍でした。面積、人口が小さく少ない分、人口密度がとても高く、軍艦島に暮らしていた人々には一人の時間がなかったそうです。「日本一」というのは、テレビの普及率や日本一高い階層の小中学校、定期船の運行年数、日本一炭

質を誇る瀝青炭などのことです。軍艦島で働いている鉱員の給料は高いため、各家庭では当たり前のようにテレビを所有していました。日本全国平均で10%、軍艦島はほぼ100%だったそうです。日本一炭質を誇る瀝青炭も軍艦島でたくさん採掘されました。「業界初」というのは、高層RC造アパート、屋上庭園、日本初のドルフィン桟橋などのことです。軍艦島にある、30号棟には国内最大の鉱石庫があり、そこには100万tもの石炭が保管されています。このように軍艦島は小さい島ですが、アパート、屋上庭園、日本初のドルフィン桟橋などのことです。軍艦島にある、30号棟には国内最大の鉱石庫があり、そこには100万tの石炭が保管されています。

古の高層RC造（鉄筋コンクリート）アパートがあります。緑の少ない軍艦島では、緑と接する機会を増やすために、ビルの上に屋上庭園が設けられました。上陸の利便性と安全性を考え、波の高さ3メートルに耐えられるドルフィン桟橋が作られました。このように軍艦島は小さい島ですが、たくさん誇れるものがあります。軍艦島に上陸する前に「軍艦島デジタルミュージアム」に是非行ってください。とても勉強になりより軍艦島を楽しむことができると思います。

—軍艦島—

長崎二日目、この日は軍艦島に上陸をしました。

朝の9時に長崎港元船桟橋から出発し、軍艦島まで約40分のクルーズで長崎の観光地を見る事ができました。船に乗り続け、天候が快晴であつたため、30分が過ぎたころには軍艦島が見えるようになり、徐々に近づき到着しました。私が軍艦島に訪れた日の天候は、一年間に三十日あるかないかの快晴であり、軍艦島ではとても珍しいことだそうです。ここから私が撮ってきた写真を何枚か紹介したいと思います。



↑ 実際の炭鉱も置かれています。

→軍艦島クルーズに乗った船。



←上陸する前の船から撮影した軍艦島。



↑鉱山の中枢であったレンガ造りの建物はこの島の司令塔的存在の総合事務所。

→上陸し、奥には30号棟と小中学校が見える。





← 見学通路の奥にあるビル。
当時のまま残っています。



→ 快晴な青空。



← 鉱員は階段を上がり採掘作業をしていた。この階段の別名「命の階段」とも呼ばれていました。



↑ 私と廃墟。



→ 廃墟となつたビルの中身。

このように軍艦島は快晴であり、たくさん写真を撮ることができました。軍艦島内の見学できる通路は短いですが、十分に軍艦島の迫力を知ることができます。私が一番見たかった、小中学校、30号棟が見ることができなかつたのは本当に残念でした。軍艦島に滞在した時間は四十分という短い時間でしたが、印象に残りました。

軍艦島上陸クルーズを終え、私は、前日とは違



↑肉眼で見られる軍艦島。

この三日間軍艦島について長崎に訪れました。が、とてもいい経験になりました。初めは、軍艦島が人気であつたため、クルーズ予約ができない不安や心配はありました。予約することもできて、実際にかつた軍艦島を訪れることができてよかったです。今年夏に世界遺産に登録され話題になつた今、軍艦島に訪れる観光客や、資料館に訪れる人がとても多かつたです。今回の取材で一番良かったことは、軍艦島上陸する前に、『軍艦島デジタルミュージアム』に訪れたことです。

長崎に行く前に軍艦島についてインターネットで調べていたのですが、詳しい内容が全く書いてありませんでした。そのため、知識がほとんどない状態で長崎に訪れました。『軍艦島デジタルミュージアム』には、私が知りたかつた資料や情報があつたので本当によかったです。何より、『軍艦島デジタルミュージアム』のスタッフの方が丁寧に詳し

う資料館に訪れました。バスで片道一時間かかる軍艦島資料館です。こここの資料館は、『軍艦島デジタルミュージアム』より資料が少なく、小さい資料館でした。30分くらいで見終わりましたが、その資料館から肉眼で軍艦島を見ることができます。

今回、軍艦島に関する取材でしたがとても勉強になりました。この取材で一つ私が心に残ったことがあります。一つ目は、軍艦島の魅力です。なぜ、軍艦島が世界遺産に登録されたかよくわかりました。『軍艦島デジタルミュージアム』のスタッフの方も話していたのですが、軍艦島には「日本」「世界」「業界初」がたくさんあります。この小さい軍艦島において多くの技術が進歩しています。当時の日本ではとても難しい技術が軍艦島で行われていたことに驚きです。二つ目に、クルーズで担当したガイドさんの言葉です。

「この軍艦島というのは、日々ビルなどの瓦礫などが崩れ落ちています。なので、いまお客様が見ている軍艦島は一番新しい風景となります。崩れ落ちていく中、軍艦島で暮らしていた人々の思いをどう後世に伝えるべきかを考えなくてはなりません。」

私はこの言葉が心に残りました。私は、世界遺産に登録される条件とはなにかと考えたことがあります。近年の世界遺産登録は国の名譽などで登

録されているような感じがします。軍艦島は、日々崩落が続き、修復をする作業がとても難しいと聞きました。当時、暮らしていた人々の思い出が消えていくことを想像するととても切ない気持ちになります。世界遺産はただ歴史的建築物を残すことでではなく、軍艦島のよう人々の出来事や世界に影響を与えたような場所を世界遺産にするべきだと私は思います。

この三日間、とても貴重な経験を得ることができ、またたくさん学べることができました。みなさんは是非軍艦島を訪れてみてください。

—おまけ—

軍艦島上陸クルーズの後、私は片道バス一時間で軍艦島の資料館に行きました。お昼が過ぎ到着したのが午後三時でした。二階にある資料館を見学後、一階にあるオシャレなお店でお昼ご飯をいたしました。メニューにはスパゲティーやハンバーグなど洋食中心のメニューがありました。私はすぐ気になるメニューを発見し、注文しました。



←これは『夕日の軍艦島カレー』です。一日限定二十食です。エビ、サラダ、空揚げがあり、ご飯はなんと軍艦島をモチーフにしてあり可愛らしいカレーでした。とてもおいしく、おなか一杯になるカレーでした。軍艦島行つた後に、軍艦島カレーはいかがですか。